

1983年に翔る



規模拡大に意欲

平山 専一さん (46歳・農業・下道湯)

「一昨年、私は県農業者訪中団員として、中国の農業を視察してきました。技術的にはかなり遅れているものの、今後の近代化への希望と、意欲を感じましたね。地力作りには学ぶ点も多かった」と言う平山さん。

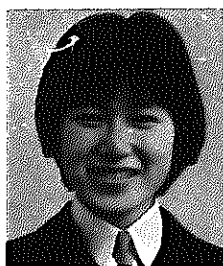
これまでは米作り一筋に努力してきた。現在、受託を含めて七・五畝の水田を耕作する。徐々にこの米作りを、四年前に県農業大学校を卒業した長男の信之さんに任せてきた。

その信之さんも昨年十月に結婚。奥さんもオフィスレディーから一転して、農業の世界へ。農繁期には老夫婦も手伝ってくれる。

「私は、転作を主に担当しており、上・下道湯では、大麦と大豆の集団転作を行っています。国内外の産地間競争に勝ちぬくためには、どこにも負けない良い品を多く獲得するための規模拡大を図ることが、必要だと思いますね」と、意欲に燃える平山さんです。

青春にスマッシュ

渡辺 葉子さん (白根高校2年・五六の町)

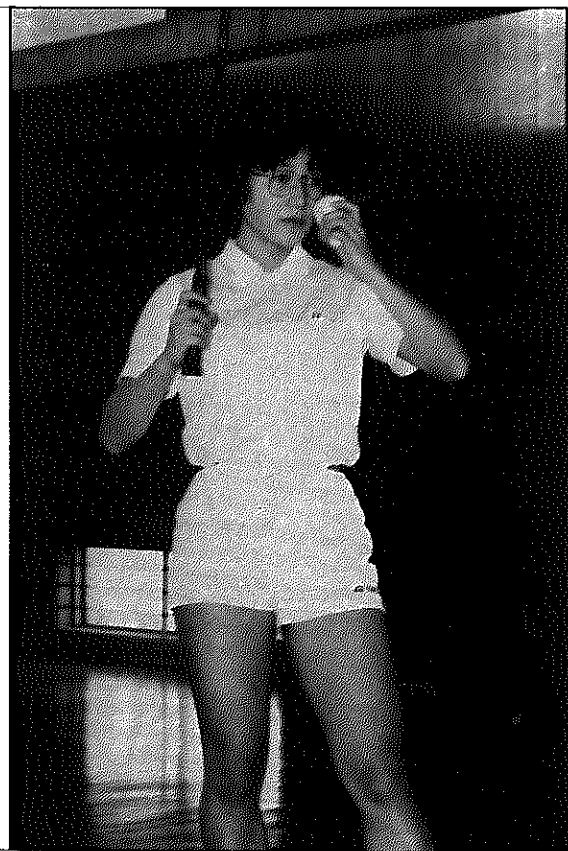


キーンと凍りつくような体育館の中で、シヤトルを打つ音だけが響きわたる。バドミントンには極めてハードなスポーツだ。体から立ちのぼる白い蒸気が、その激しさを物語る。

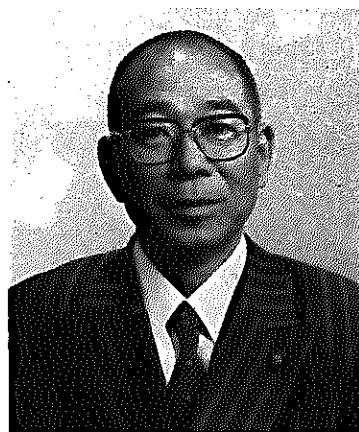
小学生のとき、お父さんを相手に初めてラケットを握ったと言う。白根第一中、白根高校とバドミントン部に所属。一年生のときから、団体戦のかなめとして活躍した。新潟地区一年生大会ではシングルスで優勝。昨年十一月の新潟地区大会では、新潟青陵高校と中央高校の厚い壁を破って三位に入賞した。

「スタミナはある方で、粘っこい試合で勝ち進むタイプですね。中身の濃い練習量を増やせば、まだまだ伸びますね」と、白井監督。

「きつくてやめようかと思ったことも何度か……。でも好きなんです。進学しても続けよう」と言う渡辺さん。最終学年の今年の活躍が期待される白根高校のホープです。



年頭のあいさつ



白根市長
吉沢 正五

発想の転換をして市政を推進

親愛なる白根市民のみなさん、明けましておめでとうございます。

白根市は、私たちにとってかけがえないふるさとであります。年頭にあたり、市民のみなさまとともにふるさと白根に対する限りなき愛情と、たくましい実践をお互いに確かめ合い、誓い合いたいと思います。

私はかねて白根市建設の方向として、「生活環境に恵まれた健康で安全な人間性豊かな白根市」という都市像を総合計画の中でかけ、市民のみなさんと呼びかけてまいりました。

ことである。昨年は、市民のみなさまのご協力をいただき、財政の苦しい中ではありましたが、予定いたしました総合計画にもとづく事業も、ほぼ予定通り進めることができました。

一、県内の代表的中堅都市として、白根周辺地域における産業、および教育文化の中心的地位と役割の確立

二、周辺市町村との結びつきを強めながら、総合食糧基地としての役割を担う

ことである。昨年は、市民のみなさまのご協力をいただき、財政の苦しい中ではありましたが、予定いたしました総合計画にもとづく事業も、ほぼ予定通り進めることができました。

一、県内の代表的中堅都市として、白根周辺地域における産業、および教育文化の中心的地位と役割の確立

二、周辺市町村との結びつきを強めながら、総合食糧基地としての役割を担う

白根市民憲章

母なる信濃川に、はくくまれた白根市民は先人の築いた大いなる遺産をひきつぎ、未来をみつめ、郷土の発展をめざす道しるべとして、ここに憲章を定めます。

美しい自然のあるまち
たがいに助け合う しあわせなまち
文化とろうおいのあるまち
健康で働く豊かなまち
きまわりを守り 明るく楽しいまち

私たちは、意見を出しあい、協力しあい、創意と工夫をこらし、市民としての誇りと希望にみちた、住みよいまちをつくりまします。

ふるさとに限りない愛情とたくましい実践を

り進めることができました。

県民待望の上越新幹線の開通をはじめ、市内では白根市出身の中国残留孤児、矢部良二さんが肉身と対面、日本への一時帰国手続きが完了という、明るいニュースもありました。

さて、迎えました昭和五十八年は、このほか厳しい経済不況と、財政のやりくりが予想されます。わが市におきましても、国同様の財政の硬化化が心配されております。これを乗り切るにはどうしたらよいか、ということを考えて、行政をはじめ、あらゆる面において、前年踏襲の考えを捨てた発想の転換が必要であります。

船若心経の中に、「心のゆとり」なせ急がねばならないか」など反省的な言葉が出てまいりますが、これも心の転換を促すものであります。価値感の飛躍的な変化が続く中で、今年は生活や仕事の精神的革命として、何が正しいか、何が必要かを、何を当面しなければならぬのかを、反芻して、成り行きの流されることなく、常に新しい価値観の上に立つて目的を定め、行政施策を推進してまいれる所存であります。

最後に、五十八年が、白根市と白根市民のために、幸せな年でありまことを祈念申し上げ、年頭にあってのあいさつといたします。